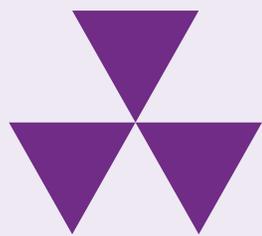


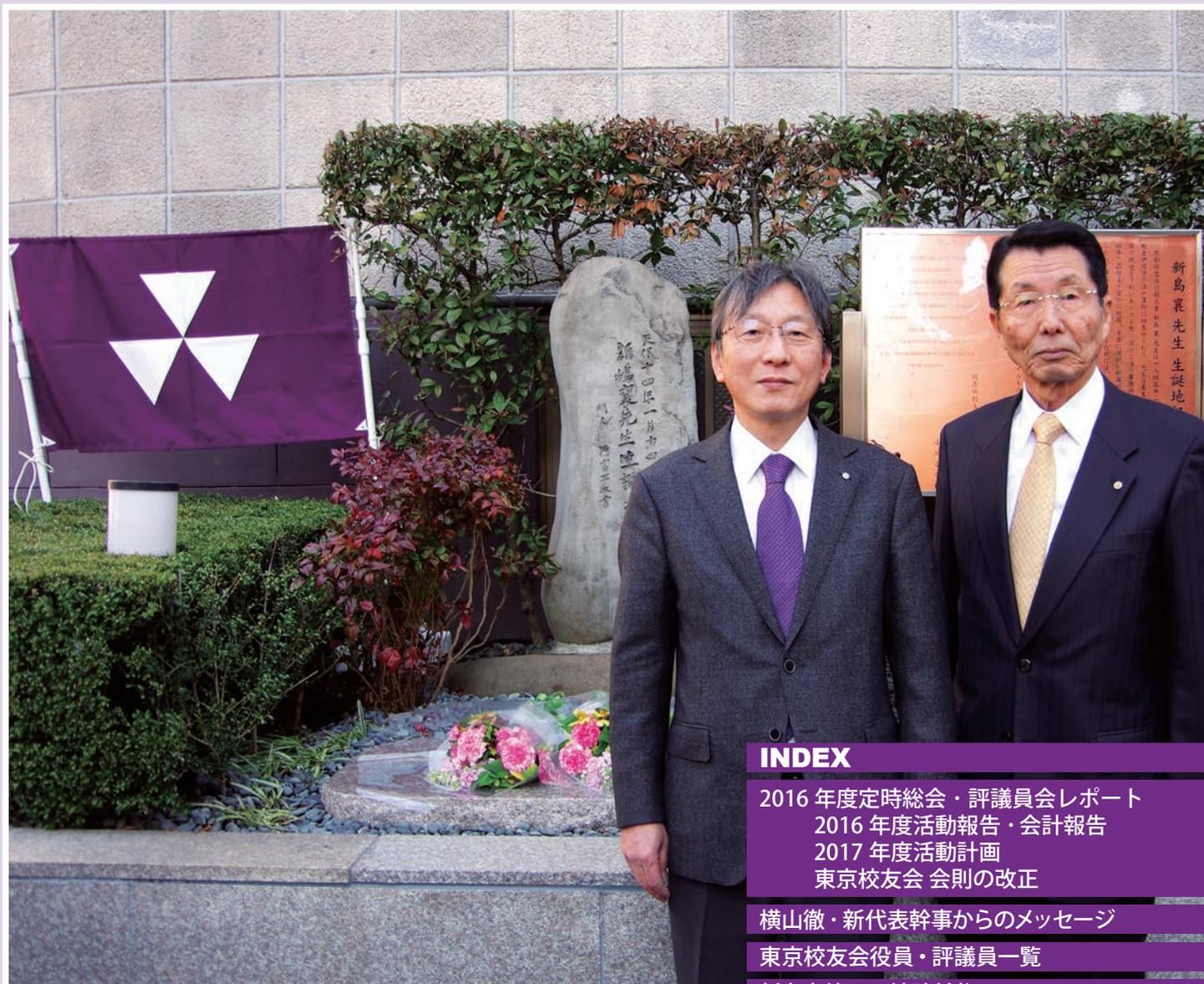
DOSHISHA TOKYO JOURNAL



同志社 東京 ジャーナル

2017 Spring

No.107



INDEX

2016 年度定時総会・評議員会レポート
2016 年度活動報告・会計報告
2017 年度活動計画
東京校友会 会則の改正

横山徹・新代表幹事からのメッセージ

東京校友会役員・評議員一覧

新島襄終焉の地碑前祭

新島襄生誕の地碑前祭

片桐家同志社五代記(二十)・連載コラム 今出川四季

校友訪問／エン・ジャパン 鈴木孝二さん

第 100 回同慶ラグビー定期戦

洛紫会／講演会レポート・次回告知

告知／120 周年記念祭 2017 同志社東京・春の集い

東京校友会奨学金募金・すみれ亭句会

同志社東京校友会

表紙写真 新島襄生誕の地碑前祭 松岡敬学長(左)と児玉正之会長(右)(学生会館)

2016年度定時総会・評議員会レポート①

2016年度活動報告・会計報告

2016年活動報告

“群れる機会”の提供

大きく分けて4つの事業を次のように推進いたしました。

◆ 生誕の地碑前祭

2016年の2月12日に多くの皆様の参加で、碑前祭・記念シンポジウムおよび午餐会が実施されました。あわせて、既報にありますように冊子「神田生まれの新島七五三太」を発行し、高評価をいただきました。

◆ 第十八回春の集い

5月15日ロイヤルパークホテルにて「ALL DOSHISHA」をテーマに、昨年より就任された松岡学長はじめ多くのご来賓をお迎えし、657名もの校友が集う中、豊かな時間を共有しました。この参加者数はもちろん新記録になりましたが、成功のポイントは二つ。まず、史上初の参加型メサイアコンサートを実施して、「春の集い」に今まであまり興味がなかった校友も気軽に来場できたこと、二つ目は同志社同窓会と共催にしたことがあげられます。

◆ 特別協力会員の集い

11月22日、学士会館で開催、

66名の会員参加のもと、学長のご挨拶と記念講演および懇親会を実施いたしました。

◆ 第2回ゴルフ大会

2015年から開催のゴルフ大会は、10月19日、秋晴れの茨城県太平洋クラブ美野里コースにて、54名の校友が参加して盛大に開催されました。

◆ ビジネスパーソンのための企画

◆ 講演会開催

全日空(株)取締役専務執行役員 河本宏子氏(東京校友会副会長)による講演会を99名もの校友参加で実施。またデジタルビジネス研究会を発足させ、5回にわたって13名のIT業界経営責任者の皆様方が真剣に討議。その成果を大学当局と調整している段階です。

◆ 洛紫会の活動

7月6日(株)レコフの恩地祥光社長と11月28日元よしもとクリエティブエージェンシー専務の竹中功さんにお願ひし、2回実施、併せて130名の参加を得て、大好評のうちに終了いたしました。

◆ 会員数の動向

◆ 通信協力費会員

春の集いでの新規入会が125

名、ビジネスパーソンのための企画での入会が48名、ホームページ・フェイスブックによる入会が60名となり、合計233名が新規入会になりました。

◆ 特別協力会員

9名の新規会員がありました。が、残念ながら退会される方も多くありました。

◆ 登録団体との連携

新たに7団体(東京アンサンブル・テニス部・料飲同志社会・食品関連研究会・同経会・理工会東京支部・女子会)が登録。年次会については4団体(51会、57会・58会・H4会)が登録されました。

◆ 最新会員数

以上の結果、通信協力費会員は2015年より85名増えて1432名、特別協力会員は18名減の126名、会員総数は67名増加の1558名となりました。

◆ 学校への協力と支援活動

◆ 募金活動の推進



児玉正之会長

東京校友会120周年記念事業として関東・甲信出身の学生を対象に東京校友会奨学金制度を設立。2017年度より運用開始の予定です。

◆ 大学諸団体への支援
例年通り、24の文化・スポーツ団体に対して各1万円、合計24万円を支援、また各行事の開催に当たっては東京ジャーナルやホームページを活用してPRに努めました。

◆ 広報活動

テーマは、若い世代への情報



満員の同志社大学東京サテライト・キャンパス

2017年2月27日(月)に評議員会・総会が120名を超える参加を得て開催され、2016年の活動報告と2017年度の活動計画が発表されました。特に2017年は東京校友会発足120周年の年であり、昨年から様々な形で、節目にふさわしい“群れる機会”の提供と記念事業が推進されています。

2016年度会計報告書

1. 2016年度収支報告書

科目	15年度実績	16年度予算	16年度実績	備考
前期繰越金				
(事業収入)	8,821,100	9,646,000	10,042,200	
春の集い会費	4,822,000	4,790,000	5,062,000	参加数予算 600名⇒実績 628名
春の集い広告収入	3,173,000	3,500,000	3,870,000	
特別協力会員の集い	580,000	800,000	535,000	参加数予算 80名⇒実績 66名
碑前祭(午餐会)会費	246,100	256,000	221,200	参加数予算 80名⇒実績 69名
「江戸 神田生まれの新島七五三太」発行(広報収入)	0	300,000	354,000	@1000*354部
東京ジャーナル広告収入	1,500,000	1,600,000	1,600,000	@400,000*4社
ホームページ広告収入(基礎収入)	80,000	70,000	50,000	@10,000*5社
通信協力会費	7,360,804	7,603,000	7,909,323	
特別協力会費	3,709,000	4,050,000	4,429,000	予算 1350名⇒実績 1517名
校友会支部助成金	2,960,000	2,900,000	2,680,000	予算 145名⇒実績 134名
その他収入	688,388	650,000	786,736	支部助成金、地域交流、会員活性化支援金
小計	3,416	3,000	13,587	内預金利息 2,587円
合計	17,761,904	18,919,000	19,601,523	
<支出の部>				
科目	15年度実績	16年度予算	16年度実績	備考
(事業費用)	9,126,192	10,229,000	10,120,171	
春の集い諸費用	8,079,868	8,290,000	8,530,058	集い収支 予算0⇒実績 501,942円
特別協力会員の集い諸費用	653,495	800,000	519,038	集い収支 予算0⇒実績 ほぼ予算通り
碑前祭(午餐会)	227,507	276,000	251,461	
碑前祭(講演会)	165,322	163,000	194,142	
「江戸 神田生まれの新島七五三太」発行(広報費用)	0	700,000	625,472	
東京ジャーナル発行配布費	1,768,913	1,960,000	1,568,586	
ホームページ維持管理費	1,501,847	1,600,000	1,260,342	4回発行
(政策経費)	267,066	360,000	308,244	
特別協力会員維持開拓費	1,208,284	1,700,000	853,209	
年次会等諸団体会員開拓費	186,610	300,000	80,673	日経テレコム、募集文書発送料等
同志社大学現役諸団体会員開拓費	313,524	400,000	267,136	新規年次会立上げ費用、年次会総会等
現役世代会員開拓費	250,000	300,000	240,000	@10,000*24団体
地域交流活性化費	294,350	600,000	242,000	春の集い新人会費、洛祭会、ビジネスパーソン等
(事務経費)	163,800	100,000	23,400	神田錦町三丁目町会会費等
通信費	3,401,790	3,910,000	3,570,370	
事務用品費・備品費	384,071	400,000	367,787	
会議費	381,017	400,000	405,221	
交際費	620,880	700,000	599,372	
業務委託費	160,098	240,000	150,000	他支部総会お祝い等
労務費	386,697	450,000	405,652	名簿管理業務、会計事務所費用等
交通費	714,000	720,000	684,000	事務所当番感謝金
家賃付帯経費	337,841	500,000	557,820	
雑費	156,371	200,000	80,200	
(人材派遣費)	260,815	300,000	320,318	振込料等
(予備費)	1,314,630	1,400,000	1,408,158	
小計	282,416	300,000	6,584	勝(スチールラック)
差異経常収支	17,102,225	19,499,000	17,527,078	
特別支出(120周年記念事業準備費)	659,679	-580,000	2,074,445	東京校友会奨学金募金
総合収支	0	1,200,000	600,000	
次期繰越金	659,679	-1,780,000	1,474,445	
合計	24,588,461	22,808,461	26,062,906	
合計	41,690,686	43,507,461	44,189,984	

*同志社校友会「熊本復興支援募金」(上記に含まず) 233,362 同志社校友会に振込(5月30日、12月16日)

科目	15年度実績	16年度予算	16年度実績	備考
<収入の部>				
校友による募金			486,860	春の集い(200,240円)、年次会等
グッズ販売による募金			185,328	@228*420個+同志社生協@100*900個
東京校友会120周年記念事業			600,000	
小計			1,272,188	
合計			1,272,188	
<支出の部>				
奨学金			0	
小計			0	
収支			1,272,188	
合計			1,272,188	

2. 2016年度特別会計収支報告書 (同志社東京校友会奨学金募金勘定)

科目	16年度実績	備考
<収入の部>		
前期繰越金	0	
校友による募金	486,860	春の集い(200,240円)、年次会等
グッズ販売による募金	185,328	@228*420個+同志社生協@100*900個
東京校友会120周年記念事業	600,000	
小計	1,272,188	
合計	1,272,188	
<支出の部>		
奨学金	0	
小計	0	
収支	1,272,188	
合計	1,272,188	

3. 財産目録 (2016年12月31日現在)

(資産)	(2014/12/31)	(2015/12/31)	(2016/12/31)	単位:円 (対前年増減)
現金	56,854	11,964	103,320	91,356
普通預金:みずほ銀行(渋谷中央)	1,525,236	1,253,099	1,059,182	-193,917
普通預金:みずほ銀行(銀座)	4,914,042	2,766,177	3,211,557	445,380
定期預金:みずほ銀行(渋谷中央)	10,000,000	10,000,000	10,000,000	0
郵便貯金	2,520,678	2,238,894	2,239,142	248
郵便振替残高	4,911,972	8,318,327	9,449,705	1,131,378
計	23,928,782	24,588,461	26,062,906	1,474,445
普通預金:みずほ銀行(京橋)	0	0	1,272,188	1,272,188
資産合計	23,928,782	24,588,461	27,335,094	2,746,633
(負債)	なし			

発信強化でした。
◆東京ジャーナルは、大幅な編集体制変更もありましたが、新連載の開始や資料などを活用して内容を充実しました。
◆ホームページをさらに充実させ、フェイスブックを有効に活用してきました。

◆広告獲得活動では、2016年は新たに東京ジャーナルに対して1社、ホームページに対して1社のご協力をいただくことができました。
事務局活動
校友会のプラットフォームである

る事務局活動は、本会運営の円滑化をテーマに活動しました。
◆名簿維持管理
2015年は管理対象9828名でしたが、昨年度は10551名になり、700名の増加になりました。
◆渉外活動は、大学との連携

を行うとともに、関東・甲信地区対応では、2回のプロック会議を開催するなど順調に推移しました。
◆経理業務全般、事務所内備品・書類の管理など充実化を図りました。
文責/横山 徹(71年・工)

2016年度定時総会・評議員会レポート②

2017年度活動計画

2017年活動計画

”群れる機会”の提供

◆生誕の地碑前祭

今年の2月12日は日曜日。地域密着型イベントとして企画、併せて校友会120周年行事としての一日になりました。

まず石碑の周りを整備して献花台を設置。新鮮な気持ちで碑前祭を執り行いました。

講演会では、千代田区のご協力で近隣の小学校からの動員を得て「江戸の寺子屋教育に学ぶ」をテーマにご講演いただきました。また、寺子屋クイズも盛り上がりました。

さらに午餐会は70名を超える方の参加をいただき、無事終了いたしました。

◆第十九回春の集い

今年の「春の集い」は、やはり「120周年記念祭」として企画しています。

テーマは「みんなにありがとう 未来 一歩前へ」となりました。当番年次は73年・83年・93年卒の皆さんです。ゲストスピーカーには佐藤優氏、また前回好評を博したメサイア合唱は今年も計画、特別企画としてシ

ンガソングライター伊藤誠さんと特別編成の「50年バンド」のコンサートを計画しました。さらにパネル展示や記念バザーも開催予定です。

盛りだくさんの内容ですが、一日中楽しんでいただくようお願いいたします。

◆特別協力会員の集い

今年は特別協力会員の皆様により多く交流機会を提供できるように計画しております。総会としての「集い」は、例年通り11月中旬に予定しています。詳細は後日連絡。

◆第3回ゴルフ大会

10月19日(木)に太平洋クラブ市原コースにて実施予定です。多くの校友の参加をお待ちしています。

ビジネス層へのアプローチ

今年は幅広い業職種・年齢層のビジネスパーソンの交流できる機会を提供します。

◆ビッグな先輩の講演会

自己啓発、情報収集を目的に年2回程度実施予定。詳細は企画中です。

◆企業トップ層の取込み模索

日経テレコンリストに基づき参加者を募集、特別協力会員化

を狙います。

◆洛紫会講演会

年3回程度実施予定。また、バーベキューでメンバーの交流会を行うことも計画しています。

会員増強策の推進

◆東京校友会案内パンフレット作成
現在、東京校友会の紹介パンフレットがありません。発足120周年を機会に、活動全容をご紹介します。入会勧誘など様々な場面で使えるパンフレットを作成

します。ご期待ください。
◆通常会員増強策(旧通信協力費会員)
「春の集い」で若年層の獲得

・ビジネス企画実施時に勧誘
・年次会活動を通しての勧誘
・ホームページ、フェイスブックを通じてPR

・新特典を検討中
◆特別協力会員増強策
日経テレコンリストでの勧誘

はもとより、常任幹事の人脈やビジネス企画参加者へのPRで会員増を狙います。

◆企業内同志社会(旧クロウバー)の活性化
数年来の課題ですが、広報活動を通じて機会あることに働きかけていきます。

◆登録団体との協力と連携
文化団体、スポーツユニオン

ごとに現在の名簿管理を活用し



会則の改正と役員改選も行われた



議長の北濃登美男代表幹事(中央)

東京校友会の活動目標は、会員相互の親睦を図り、交誼を厚くしていくことにあります。今年度は東京校友会発足120年の節目の年、さらに会員数を増強するために様々な記念企画を立案、実現していきたいと考えています。会員の皆様の絶大なるご協力をお願いします。

◆**学校への協力と支援**
◆**募金活動の推進**
120周年記念事業として、
本年9月より「東京校友会奨学

- ◆**会員総数目標**
2016年 1558名↓
1640名(前年比+82名)
- ◆**特別協力会員目標**
2016年 126名↓
140名(前年比+14名)
- ◆**通常会員目標**
2016年 1432名↓
1500名(前年比+68名)

◆**会員数の目標**
ここ数年会員数は微増傾向ですが、特別協力会員の減少が課題です。しっかり策を講じ増強につなげていきたいと思えます。

◆**若年層の獲得**
従来通り、「春の集い」参加者に特別価格を設定し、積極的に勧誘していきます。

◆**年次会の拡充**
会員ネットワークの要として、また「春の集い」参加者の実行委員予備軍として充実強化します。

◆**ネットワークの強化を図りま**
す。またホームページ、フェイスブックを通じて情報提供します。

◆**フェイスブック**
幅広い校友、特に若

- ◆**東京ジャーナル**
編集委員を補充して取材・編集体制を強化し、魅力ある読物・活動記録・資料になるようにします。
- ◆**ホームページ**
制作・運営会社との契約を見直し、運用経費の軽減と活性化を図ります。

◆**広報活動計画**
今年度は、いかに若い世代へ情報発信を強化していくかがテーマです。

◆**大学諸団体への支援**
昨年同様、継続します。

◆**同志社大学行事への積極協力**
「ビジョン2025」に呼応して活動、校友会のメディアを最大限活用して、協力します。

◆**金」を新設。**対象は関東・甲信出身の2回生と3回生で4名とします。なお原資となる募金活動は、「春の集い」などの諸行事の際に積極的に実施。併せてクッキー販売により差益金寄付も継続します。



退任された常任幹事、左から出石賢司・片桐陽・北濃登美男・早田重彦の各氏



新任の常任幹事、左から剣持益美・小山利喜・菊池諭・片岡信雅・井ノ上弘の各氏

◆**渉外活動の展開**
校友会本部各行事への運営連

◆**事務局活動計画**
引き続き東京校友会が円滑かつ円満に運営できるよう、さらに充実していきます。

◆**広告獲得活動**
東京ジャーナルは7社(前年より2社増)、ホームページは13社(前年より8社増)になるように計画。広告メリットをしっかりと訴求していきます。

◆**経理処理の適正化**
皆様からお預かりした大切な資金を有効に活用するために、適正に処理し管理します。

◆**名簿管理の徹底**
個人情報流出・漏洩防止策継続と、名簿管理業務の事務局への集約・効率化をすすめます。

◆**諸会議の事務局機能充実**
年間スケジュールの作成・運用を実施します。

文責/横山 徹(71年・工)

2016年度定時総会・評議員会レポート③

同志社東京校友会 会則の改正

会則の一部改正のポイント

1. 本部会則との整合性

本部が新体制となり、本部を中心に各支部との連携が強化される中、特に東京校友会を中心とした関東・甲信ブロックの役割は増えています。その結果、今後益々、本部、大学との連携した活動が増えてくる事が予想されますので、現行会則の問題点を洗い出し、上記状況に対応出来る体制作りによく会則の変更が提案され、総会・評議員会で承認されました。改正のポイントは、左記の通りです。

①会計年度

現行 1月～12月 ↓ 4月～3月

本部・大学 4月～3月

②役員の任期

現行 2年 ↓ 3年 本部・3年

③会長、副会長の在任期間

現行 2期4年 ↓ 2期6年（最長6年 ↓ 最長9年） 本部・3期9年

2. それに関連する条項の変更

3. 年次会等の登録団体数の増加に伴う、幹事の定員増

現行 70名以内 ↓ 80名以内

4. その他、見直しが必要と思われる条項の変更

（2017年2月27日改正）

同志社東京校友会会則

第1章 総則

第1条(会の名称)

本会は、同志社東京校友会と称し、同志社校友会東京支部を兼ねる。

第2条(会の目的)

本会は、会員相互の親睦をはかり、交誼を厚くするとともに、学校法人同志社との関係を緊密にし、かつ同志社諸学校の発展を支援することを目的とする。

第3条(事務所の所在地)

本会は、事務所を東京都内に置く。

電話・03-5579-9728

FAX・03-5579-9729

第4条(事業)

本会は次の事業を行う。

①会員等名簿の作成・整備

②会報の発行およびホームページの開設、維持

③講演会および親睦の為の事業

④同志社で学ぶ学生の支援を行う。

⑤学生の卒業後の社会人活動を支援する。

⑥前各号のほか必要な事項

第2章 会員

第5条(会員の有資格者)

本会会員の有資格者は、同志社大学その他学校法人同志社傘下の諸学校に在籍した者で、東京都内および関東地区に居住または勤務する者とする。

2 前項にかかわらず、有資格者でない者も、評議員会の承認を得て本会の会員になることができる。

第6条(会員の区分と権利義務)

会員は前条で定める有資格者で、幹事会で決定された年会費を納入している者。なお、会員のうち、通常の年会費を納入する会員を「通常会員」、特別会費を納入する会員を「特別協力会員」と呼称する。

2 会員となれる有資格者であるが、年会費を納入していない者を準会員と呼称する。

なお準会員は、本会則で定める基本的な権利義務を有しない。

第3章 会員総会

第7条(定時総会)

定時総会は、毎年1回決算期から3ヶ月以内に東京都内において開催する。

第8条(臨時総会)

本会は、30名以上の会員の文書による請求があるとき、または

幹事会の決議があるときは、臨時総会を開かなければならない。

第9条(招集)

総会は会長が招集する。

2 総会の目的、期日および場所は、期日より2週間前迄に、本会会報又はホームページで公示しなければならない。

第10条(議長)

総会の議長は、会長が務める。

第11条(決議)

総会の決議は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長がこれを決する。ただし、会則を変更する場合は出席会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第12条(付議事項)

定時総会には、次の事項を幹事会が提出し、その承認を受けなければならない。

①前年度事業報告ならびに収支決算

②当事業年度計画ならびに収支予算

③その他幹事会において重要と認められた事項

第13条(会員の議案提出権)

会員は、30名以上の連署をもって理由を付したる書面により、議案の提出を幹事会に請求することができる。



今出川キャンパス・西門

2 幹事会は、その議案提出の請求があった日から1ヵ月以上経過した日以降に開催される総会に上程しなければならぬ。

第4章 評議員および評議員会

第14条(評議員選出の目的)

本会の運営に広く会員の意見を反映させ、本会と会員及び準会員の連絡を密にする目的をもって、評議員を選出する。

第15条(定時評議員会)

定時評議員会は、年2回、春期および秋期に東京都内において開く。

第16条(臨時評議員会)

幹事会の要請があったときまたは評議員30名以上の連署をもって、理由を付したる書面による

請求があったときは、臨時評議員会を開かなければならない。

第17条(評議員の委嘱基準)

評議員の委嘱は、第6条第1項第1号の会員の中から、次の基準に基づいて行う。

- ① 評議員選挙直前の11月末迄に、本会に対して評議員の選出を希望し、代表者・構成員名簿を届け出た企業内クローバー会、卒業年次会、その他クラブ等の諸団体(以下、「登録団体」と称する)から推薦された者
- ② 登録団体からの評議員の人数は、原則として会員10名につき1名(一団体当たりの上限は設けない)とする。ただし、評議員の選出を希望した登録団体については、所属会員の人数にかかわらず、最低1名を選出する。
- ③ その他、登録団体に属さない会員並びに会の運営上必要と認められた会員については、常任幹事会が推荐し、会長が指名する者。ただし、これによる評議員は総会員数の概ね3%以内とする。

第18条(任期)

評議員の任期は3年とし、役員選挙のある年の4月1日に始まり、3年目の3月末日に終わる。

2 委嘱された評議員に欠員が生じた場合および前条第1項乃

至第3項の基準により追加委嘱が必要な場合は、期の途中から評議員になることを得る。ただし、その任期は、次の役員選挙のある前年の3月末日に終わる。

第19条(再任)

評議員の再任は妨げない。ただし、評議員の選出された団体に定めがある場合はその限りではない。

第20条(評議員会の職務)

評議員会の職務は、次のとおりとする。

- ① 会長推荐に関する事項
- ② 役員選挙に関する事項
- ③ 役員任免に関する事項
- ④ 総会に提議すべき事項
- ⑤ その他重要事項

第21条(定足数)

評議員会は、評議員の過半数の出席をもって成立する。ただし、委任状の提出をもって出席に代えることができる。

第22条(招集と決議)

評議員会は、会長が招集し、決議については、出席評議員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第23条(評議員会の議長)

評議員会の議長は、会長が務める。

第5章 役員および役員会

第24条(役員の種類と数)

本会に次の役員を置く。

- 会長 1名
- 副会長 7名以内
- 代表幹事 1名
- 副代表幹事 3名以内
- 常任幹事 25名以内
- 幹事 80名以内(代表幹事、常任幹事を含む、ただし、幹事でない会員から会長、副会長が選出された場合には、その人数を増加させるものとする。)
- 会計監事 2名

第25条(会長の選出手続)

会長は、評議員会において会員の中から推荐し、総会の承認を得るものとする。

第26条(副会長の選出手続)

副会長は、会長が評議員会の承認を得て、会員の中から選任する。

第27条

(幹事、会計監事の選出手続)

幹事および会計監事は、評議員会において評議員の中から選任する。

第27条の2

(常任幹事の選出手続)

幹事の中から、会長の指名により常任幹事を選任する。

第27条の3

(代表幹事の選出手続)

代表幹事は、選任された常任幹事の中から、その推薦に基づき、会長が指名する。

第27条の4

(副代表幹事の選出手続)

副代表幹事は、選任された常任幹事の中から、代表幹事の推薦に基づき、会長が指名する。

第28条(顧問)

顧問は、本会の運営に必要かつ有益な場合、幹事会の推薦により、評議員会の承認のうえ選任される。なお、その任期は、選任の都度定める。

第29条(名誉顧問)

名誉顧問は、会長経験者および本会に特に功績のあった会員で、幹事会の推薦により、評議員会の承認のうえ選任される。

なお、任期は、選任された時から、原則として10年とし、重任は妨げない。

第30条(役員任期)

役員任期は3年とし、3年ごとの役員定期選出年の定時総会終了時点までとする。ただし、役員の後任者の決定するまで、その職にあるものとする。

第30条の2

2 補欠選挙により就任した役員任期は、前任者の残任期間

とする。

第31条(役員)の在任期間の限度)

会長、副会長については通算在任期間を設定し、その年数を6年とする。但し、会の運営上支障をきたすと判断した場合に更に1期の再任を妨げるものではない。その他役員については、通算在任期間を設けない。

第32条(会長などの職務)

会長は、本会を代表し、会務を統括し、総会、評議員会、および幹事会の決議の執行にあたる。

2 副会長は、幹事会および常任幹事会の審議に参画するとともに、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。

3 幹事は、本会組織の根幹となつて、幹事会の審議に参画するとともに、その決議の執行の推進にあたり、本会の目的達成に努める。

4 常任幹事は、総会・評議員会・幹事会等の決議事項の執行にあつて、その中核になるとともに、会長から委嘱された業務の実施にあたり、これらを通じて、会長を補佐する。

5 代表幹事、副代表幹事は、常任幹事会および常任幹事の職務の円滑な実施に資するため、

会長および副会長との連絡ならびに常任幹事間の調整にあたるものとする。なお、副代表幹事は代表幹事を補佐し、代表幹事事故あるときはこれを代行する。

第33条(幹事会の職務)

幹事会は年4回以上開催し、その職務は、次のとおりとする。

- ① 資産管理に関する事項
- ② 予算および決算に関する事項
- ③ 総会の決議事項の執行
- ④ 評議員会に提議すべき事項
- ⑤ 総会の開催および総会への提議事項
- ⑥ 学校法人同志社評議員選挙に関する事項
- ⑦ 同志社校友会会則第16条第3号による評議員の選出
- ⑧ その他重要な事項

第33条の2 (常任幹事会の構成と職務)

会長を補佐する常設の機関として常任幹事会を設け、会長、副会長、代表幹事、副代表幹事および常任幹事をもって構成する。

2 常任幹事会は、会長による総会、評議員会および幹事会の決議事項(大綱・方針等を含む)の執行に必要な施策についての審議(協議および調整)を行う

場とする。常任幹事会は、会長が主宰し、審議の採否については、全会一致を原則とするが、協議または調整が調わない場合は、会長の決定による。

第34条

(常任幹事会の構成と職務)

幹事会の議長は、会長が務め、その決議は出席者の過半数をもって行う。

第35条(会計監事の職務)

会計監事は、財務書類を監査し、総会に報告しなければならない。

2 会計監事は、幹事会に出席して意見を述べることができる。

第36条(顧問の職務)

顧問および名誉顧問は、幹事会に出席して、会の健全な発展のために助言を与えることができる。

第37条(委員会)

本会は、必要に応じて委員会を設けることができる。委員は会員の中から、会長が委嘱する。

第6章 事務局

第38条(事務局)

本会の運営を円滑におこなうために、会長の統括のもとに事務局を置き、次の職務を行わせる。

① 到達通信の処理および会員、

学校法人同志社、同志社大学、外部関係者との連絡業務

② 諸会議の事務局業務および決議の執行補佐

③ 名簿の維持管理

④ 金銭出納および経理業務全般(特別協力会費、通信協力費の回収を含む)

⑤ 備品、各種書類の保管管理

⑥ その他本会運営のために日常発生する諸問題の処理

2 前項の職務を統括管理する者として

事務局長を置く。事務局長は会長が幹事会の同意を得て選任する。

第7章 会計

第39条(財政)

本会の会員は、幹事会で決定した年会費を納入しなければならない。

2 本会の運営に必要な経費は、年会費のほか、次によって賄う。

- ① 都度会費
- ② 寄付金並びに広告費



室町キャンパス・寒梅館

③ 特別協力会員からの会費

④ 同志社校友会の支部支援助成金

第40条(会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日をもって終わる。

(付則)

1 会則変更の為、2017年度の会計年度は2017年1月1日に始まり、2018年の3月31日をもって終わるものとする。



横山徹・新代表幹事

◆横山徹・新代表幹事からのメッセージ

東京校友会をプラットフォームにして、
豊かな人生になるようお手伝いしたい

このたび、前任の北濃前代表幹事の後を受けて、就任いたしました1971年工学部卒の横山徹です。

東京校友会発足120周年の節目の年に就任させていただくことは誠に光栄です。前任の素晴らしい手腕に追いつくには相当な努力が必要と思いますが、会員の皆様のご指導、ご鞭撻によりご期待にお応えできるよう頑張る所存です。

120年前の6月25日東京校友会は、同志社校友会東京支部として誕生しました。以降、多くの偉大な先人によって永きにわたり、同志社校友の首都圏拠点として活動してまいりました。そして今年が120周年。

このような年に、小職が代表幹事に着任することは、誠に重責ではありますが、光栄なことだと思えます。会員の皆様方から心より感謝申し上げます。さて校友会の活動目標は、会員相互の親睦を図り、交誼を厚

くしていくことにあります。私
たちには、大学時代を創立者新
島襄先生の「良心教育」のもと、
京都の地で過ごした共通の思い
出があります。東京校友会をプ
ラットホームにして、さらに会
員の皆様方が相互交流を図り、
豊かな人生になるようにお手伝
い出来れば、と考える次第です。
その中心的企画が、群れる
機会を、提供することにあります。
例えば「春の集い」の開催
です。おかげさまで、年々活況
を呈しており、今年も120周
年記念行事の核として例年以上
に豊富なプログラムでご来場の
皆様方が一日中お楽しみいただ
けるように企画されております。
そのほか多角的に行事を計画
して皆様方のお役に立てるよ
う、進めてまいりますのでよろ
しくお願いたします。

■同志社東京校友会 主要役員一覧■

No.	役職	氏名	卒業年	学部	
1	会長	児玉 正之	1970年(昭和45年)	法学部	
2	副会長(常任幹事会担当)	金屋 憲二郎	1970年(昭和45年)	商学部	
3	副会長(無任所)	村口 和夫	1972年(昭和47年)	法学部	
4		魚谷 雅彦	1977年(昭和52年)	文学部	
5		河本 宏子	1979年(昭和54年)	文学部	
6		神内 一憲	1972年(昭和47年)	商学部	
7		代表幹事	横山 徹	1971年(昭和46年)	工学部
8	常任幹事	安井 亮	1968年(昭和43年)	工学部	
9		井上 護	1968年(昭和43年)	工学部	
10		近藤 義彦	1969年(昭和44年)	経済学部	
11		稲垣 雅子	1970年(昭和45年)	商学部	
12		横山 徹	1971年(昭和46年)	工学部	
13		井手口 満和	1971年(昭和46年)	経済学部	
14		谷村 和典	1972年(昭和47年)	文学部	
15		阪口 章夫	1973年(昭和48年)	商学部	
16		寺田 英昭	1973年(昭和48年)	商学部	
17		港 章	1975年(昭和50年)	工学部	
18		高塚 輝三	1975年(昭和50年)	商学部	
19		伊吹 泰治	1976年(昭和51年)	経済学部	
20		桐山 輝夫	1976年(昭和51年)	経済学部	
21		作村 満明	1977年(昭和52年)	法学部	
22		新田 博伸	1977年(昭和52年)	法学部	
23		安永 昌代	1981年(昭和56年)	経済学部	
24		新任	井ノ上 弘	1971年(昭和46年)	法学部
25			片岡 信雅	1971年(昭和46年)	文学部
26			菊池 諭	1975年(昭和50年)	法学部
27			小山 利喜	1977年(昭和52年)	経済学部
28	青木 重之		1978年(昭和53年)	経済学部	
29	剣持 益美	1983年(昭和58年)	商学部		
30	会計監事	坂本 安人	1971年(昭和46年)	法学部	
31		木寅 雅之	1993年(平成5年)	法学部	
32	名誉顧問	西村 四郎	1948年(昭和23年)	経済学部	
33		佐々木 綱雄	1955年(昭和30年)	経済学部	
34		堀内 陽二	1951年(昭和26年)	経済学部	

評議員・幹事一覧

(順不同)

No.	選出母体	評議員氏名	幹事	卒業年・学部	No.	選出母体	評議員氏名	幹事	卒業年・学部
年次会					クラブOB・OG会				
105	57会	江口 和哉	○	1982・商	156	ワンダーフォーゲル部	阪口 章夫	○	1973・商
106		谷口 仁宏	○	1982・文	157		山口 洋一		1978・商
107		寶野 和美		1982・商	158	テニス部	河島 正臣		1980・工
108	58会	増田 晶文		1983・法	159		角南 正記		1982・工
109		岩崎 英夫	○	1983・法	160		樋口 眞一		1983・経
110	61会	佐々木 高夫		1986・文	161		佐藤 大信		1992・法
111	洛紫63会	藤田 昇良		1988・商	161	同志社大学体育会 サッカー部OB会	小山 利喜	○	1977・経
112	平成元年東京クローバー会	河合 利彦		1989・法	162				
113	H3会	高村 正輝	○	1991・工	163	同志社東京アンサンブル	岡村 隆		1976・法
114	H4会	西垣 佳機		1992・商	企業内同志社会				
115	H5会	橋本 哲也	○	1993・商	164	あいおいニッセイ同和 クローバー会	小川 三千夫		1978・経
116		木寅 雅之		1993・法	165		安田 修久		1989・経
学部別同窓会					業界別同志社会				
117	樹徳会東京支部	俣野 隆	○	1970・商	166	東京 RE クローバー	熊森 克己	○	1989・商
118		高塚 輝三	○	1975・商	167		小暮 隆		1991・商
119		津布久 順子		1980・商	168		田中 秀和		1996・経
120	宮澤 じゅん		1997・商	169	榎本 あかね			2000・商	
121	政法会東京支部	山澤 祥吾		1961・法	170		志見 壮一		2002・法
122		阪田 智之		2000・法	171	同志社会計人会	前川 修満	○	1983・商
123	理工会東京支部	奥出 聡		1977・工	172		佐々木 博章		1982・商
124		小原 肇		1971・工	173	同志社ファッション倶楽部	猶原 明人	○	1974・商
125	同経会	辻川 茂樹		1967・経	174		小川 浩紀		1990・商
クラブOB・OG会					175	料飲同志社会	福山 孝広		2002・商
126		近藤 義彦	○	1969・経	176	同志社大学食品関連研究会	上野 貴也		1992・文
127		佐上 勝彦		1965・文	サークル				
128	同志社大学 ESS 東京 OB 会	森本 裕子	○	1969・経	177	女子会	新垣 ひとみ		1996・商
129		鈴木 悦子	○	1971・法	178	東京囲碁会	有原 清		1962・法
130		藤田 薫		1972・文	179	東京新島研究会	木村 ケイ	○	1954・文
131		中井 陽子		1988・法	180		半田 久		1957・文
132		村山 圭一		1990・文	181		三瀬 安彦		1961・商
133		浅井 健太		2010・法	182	同志社東京歩こう会	駒田 隆之	○	1968・工
134		伊藤 洋輔		2010・商	183		稗田 賢二		1959・商
135		アメリカンフットボールOB会	大野 勝	○	1987・商		184	近藤 恒雄	
136	応援団関東OB・OG会	小堀 徹		1983・工	185		郷農 恭子		1963・文
137		中山 建		1988・商	186		小林 繁蔵		1968・法
138	カヌー関東OB会	藤川 利倫	○	1979・文	187		宇野 多恵子		1978・商
139		森田 義貞		1971・工	188	洛紫会	吉田 太郎	○	2001・法
140	硬式野球部	剣持 益美	○	1983・商	会長推薦				
141	茶道部OB・OG会	板岡 功雄	○	1961・法	189	会長推薦	野田 幸蔵		1960・商
142		南 武美		1961・経	190		保阪 正康		1963・文
143	山岳部	川治 陽		1986・経	191		木下 利彦		1966・経
144		高野 見輔		1986・工	192		森本 克英	○	1966・工
145	同志社校友会射撃部	山口 有久		1985・商	193		坂本 安人		1971・法
146	柔道部後援会東日本	八木 克明	○	1987・文	194		村口 和夫		1972・法
147	体育会卓球部	平井 裕		1972・経	195		増田 宗昭		1973・経
148	東京弓友会	永山 巖		1967・工	196		桐山 輝夫	○	1976・経
149		村上 容		1987・経	197		藤井 豊明		1976・商
150	東京クローバークラブ	南迫 卓一	○	1958・商	198		魚谷 雅彦		1977・文
151	日本拳法部OB会関東	西村 一哉		1983・法	199		平井 千元	○	1979・商
152	バドミントン東京OB会	近藤 勝彦	○	1966・経	200		河本 宏子		1979・文
153		米納 隆雄		1971・商	201		安永 昌代	○	1981・経
154	ラグビー部	狩野 均	○	1975・経	202		鈴木 卓		1986・神
155		倉本 久司		1990・商	203		岡崎 和光		1987・法

2017年～2019年 同志社東京校友会

No.	選出母体	評議員氏名	幹事	卒業年・学部	No.	選出母体	評議員氏名	幹事	卒業年・学部	
年次会					年次会					
1	同志社29会	村木 廣三		1954・商	51	同志社44年会	川崎 亮生	○	1969・工	
2		永松 一之		1954・短	52		並河 和之	○	1969・経	
3	30会	平岡 敏雄	○	1955・商	53		大塚 一郎		1969・商	
4		本田 正明		1955・経	54		古藤田 憲之		1969・工	
5		林 京二		1955・経	55		古川 隆彦		1969・法	
6	同志社31会	安東 達	○	1956・経	56		松田 政博		1969・工	
7		山崎 一徳		1956・経	57		寺戸 重光	○	1970・文	
8	東京33会	結城 哲彦	○	1958・法	58		香月 宏三		1970・商	
9	東京34年次会	外村 泰三	○	1959・法	59		児玉 正之		1970・法	
10		榎本 輝子		1959・文	60		金屋 憲二郎		1970・商	
11		村木 文明		1959・経	61	稲垣 雅子	○	1970・商		
12	関東三五会	洪水 啓次	○	1960・商	62	竹村 慶三		1970・法		
13		増田 中也		1960・文	63	福島 直廣		1970・商		
14		柴田 義子	○	1960・文	64	近藤 正二		1970・商		
15		小林 英彦		1960・法	65	調 幸一郎	○	1971・文		
16		泉 英毅		1960・経	66	井ノ上 弘	○	1971・法		
17		同志社関東三六(ミロク)会	神免 宏憲		1961・商	67	片岡 信雅	○	1971・文	
18	島本 憲吉			1961・法	68	芝原 俊郎		1971・法		
19	原山 裕			1961・経	69	井手口 満和	○	1971・経		
20	酒井 森明			1961・商	70	横山 徹	○	1971・工		
21	永井 裕			1961・文	71	神内 一憲		1972・商		
22	東京37会	吉岡 睦高	○	1962・商	72	野城 保		1972・経		
23		中尾 靖博		1962・法	73	谷村 和典	○	1972・文		
24		小野 久美子		1962・文	74	原 耕一		1972・経		
25		佐々木 俊二		1962・経	75	和田 憲雄	○	1973・工		
26		野崎 哲郎		1962・工	76	長谷部 明		1973・経		
27	東京38会	山根 司	○	1963・法	77	支倉 清	○	1973・法		
28		柴田 佳子		1963・経	78	寺田 英昭	○	1973・商		
29	東京39会	宮崎 泰二	○	1964・法	79	十川 正明		1973・工		
30	東京40会	川口 碩保		1964・法	80	若林 英博	○	1974・工		
31		伊藤 文子	○	1965・経	81	田中 範男		1974・商		
32		武藤 勝一	○	1965・経	82	和知 道章		1974・文		
33		渡辺 英雄		1965・工	83	志賀 泰介		1974・法		
34	同志社東京41会	菅野 かつ子		1965・文	84	港 章	○	1975・工		
35		坂本 英和	○	1966・商	85	菊池 諭	○	1975・法		
36		早田 重彦	○	1966・経	86	畑中 助光		1975・工		
37		桑田 津也子		1966・文	87	伊吹 泰治	○	1976・経		
38		吉田 正彦		1966・法	88	齋藤 邦義		1976・商		
39		北濃 登美男	○	1966・法	89	渡邊 康嗣		1976・商		
40	奥田 利秋		1966・工	90	吉岡 哲郎		1976・法			
41	同志社関東42会	片桐 陽	○	1967・工	91	新田 博伸	○	1977・法		
42		志村 久二勝		1967・工	92	作村 満明	○	1977・法		
43		加藤 寿彦		1967・法	93	田村 育久子		1977・文		
44		鴨下 眞佐子		1967・文	94	東 多江子		1977・文		
45		日置 栄一		1967・経	95	出石 賢司	○	1978・経		
46	東京53年会	古田 良三		1967・文	96	青木 重之	○	1978・経		
47		安井 亮	○	1968・工	97	仁藤 正平		1978・商		
48		井上 護	○	1968・工	98	藤井 英哉	○	1979・商		
49	東京54会	本田 和美		1968・文	99	高井 忍		1979・経		
50		吉川 進		1968・工	100	坂野 慎哉		1980・商		
					101	東京55会	平川 功	○	1980・法	
					102		土居 範行		1980・工	
					103		56会	俵谷 満紀	○	1981・商
					104			武永 庄司		1981・経

新島襄終焉の地 碑前祭

新島襄の遺徳を偲ぶ

2017年1月23日(月)、大磯にて今年も校祖新島襄終焉の地碑前祭が、学校法人同志社主催にて、召天された14時20分から行われました。

晴天ながら例年にならない寒さの中、大谷實総長はじめ校友・同窓や中崎久雄大磯町長はじめ町民の皆さまなど、120名を超える方々が参列され新島襄の遺徳を偲びました。

黙祷、讚美歌斉唱に始まり、大谷総長が次のように式辞を述べられました。

「新島襄は、今から127年



新島襄先生終焉の地碑(大磯町)

『天を怨まず、人をとがめず』という最後の言葉を残して天に召されたと伝えられています。新島襄が亡くなってから127年、学校法人同志社は14の学校、4万3千人を擁する一大総合学園に発展。グローバル化、少子化の時代に直面して厳しい環境の中、更なる発展・深化を願い世界に羽ばたく同志社を目指します」。

続いて中崎大磯町長が挨拶に

前の1890年1月23日、46歳11カ月の若さで、大磯町の旅館『百足屋』で永眠。同志社大 学設立を熱望して病を押して日夜奔走したあとの終焉で八重夫人、徳富蘇峰、小崎弘道3名の立会いのもと遺言を蘇峰に口述筆記させた。学生たちを深く気遣い『吉野山 花咲く頃は朝な朝な 心にかかる峰の白雲』という詩を書かせ、しばらくして『天を怨まず、人をとがめず』

立ち、大磯町は「子育て」「教育」「健康」「観光」の4つの重点施策を掲げており、新島先生が病の中、ここ大磯町から人を育てる「良心教育」を発信されたこと、新島先生の終焉の地であることは大磯の誇りであること、新島先生が大磯の子供たちを暖かく見守っていただいていような気がすることに感謝していると述べられました。

卒業生団体を代表して

同志社校友会児玉正之東京支部長は、「新島襄が1864年21歳の時、函館から海外密航して死没までの25年間に、岩倉欧米使節団の通訳として随行や10年間の海外生活によりキリス



中崎久雄大磯町長のご挨拶



大谷實総長による献花

ト教主義による『市民生活』の重要性を体得。帰国後死没までの15年間に全国津々浦々を伝道、1884年には募金と静養を兼ね欧米を旅行するなど、あの時代に短い生涯で地球を2周された。国内外通じて極めて精力的に行動された先導者であった。教育を通じて『人物を養成する。まさに良心教育』に一生をささげられた」と挨拶されました。

碑前への献花の後、大磯町詩吟連盟の皆さまによる詩吟・和歌朗詠、最後にカレッジソング斉唱でお開きとなりました。

文責／竹村慶三(70年・法)

世界中でつくります。なかった空気。できなかった空気。

国が違えば、暮らしが違えば、欲しい空気も違えば。ダイキンは最新の空調技術で、その全てに応えたい。



新島襄生誕の地 碑前祭

120周年記念事業として 生誕の地碑周辺を整備

2月12日(日) 神田錦町の学士会館にて「新島襄生誕の地 碑前祭」と「講演会」「午餐会」が開催されました。

今年度は東京校友会発足120周年記念事業として、学士会館のご協力を得て、碑の周りの植木を整備し、石碑の前に新たに献花台を設けることができました。今までは植木に隠れて見えにくかった石碑も通りからはっきり分かるようになり、その碑の前に100名以上の校友や地



生誕の地碑周辺を整備して、献花台を設けることができた



講演会「江戸の寺子屋に学ぶ」

域の方も参加され「生誕碑前祭」が執り行われました。

快晴ではありましたが、北風の吹く寒い朝に、学校法人同志社吉田由紀雄法人事務部長の司会で始まり、全員で讃美歌を歌いました。次に同志社大学松岡敬学長の式辞。続いて、東京校友会児玉会長、錦町三丁目前田智彦町会長からの挨拶がありました。最後に同志社カレッジ・ソ

ングを全員で歌い、新しくなった献花台へ献花をして校祖の生誕を祝いました。

碑前祭終了後には、学士会館210号室において地域交流として、地域の小学生やその父兄も参加しての講演会を開催。講演会の前に、東京校友会の支倉常任幹事による「寺子屋クイズ」があり、正解の多かった方々に用意した賞品を配り大いに盛り上がりました。

その後には、江戸東京博物館の市川寛明学芸員による「江戸の寺子屋に学ぶ」と題した講演会に入りました。講演では、明治になり開国された日本にやって来た外国人達が自分の国より日本の方が識字率の高いことに驚いたこと、日本の子供は世界のどの国の子供よりニコニコと幸せそうであったことから始まり、江戸時代の寺子屋が実に大らかで自由であったこと、新島襄も若い頃は父親の寺子屋で40人から50人の子供達を教えたことなどを講演していただきました。講演を聴き、新島襄先生の良心教育の始まりはこの寺子屋にあったのではないかと思います。



午餐会には78名が参加した

午餐会には、78名が参加。地域からも千代田区神田公園出張所平井秀明所長、千代田区観光協会森川清司郎会長、学士会館精養軒渡邊幸重社長を来賓にお迎えし、ご挨拶を頂きました。同志社校友会の中村友一副会長の英語での乾杯の音頭があり、同窓会東京支部加藤聖子支部長は天国の新島先生もきっと喜んでいらつしやるとスピーチ。東京校友会の金屋副会長の「校祖生誕を祝うこの催しを早稲田や慶応の友人がうらやんでいた」という話もあり、校祖174回目の誕生日を参加者全員で盛大にお祝いする賑やかな一日となりました。

文責／作村満明(77年・法)

答えを探し続ける、という答え。

A D A S T R I A

GLOBAL WORK LOWRYS FARM LEPSIM niko and ... studio CLIP JEANASIS Andemiu apart by lowrYS BAYFLOW
BARNYARDSTORM 第150回 亀戸天神 2016年1月28日 Heather HARE RAGEBLUE BLISS POINT repipi armario BABYLONE me%

連載
企画

片桐家同志社五代記

その二十

文／片桐 陽(67年・工)

私の父、昌は昭和9年中学卒業後一年中国に戻るが、翌年同志社高等商業学校(高商)に入

学、岩倉の地で学ぶことになる。

在学中は応援団に所属、同志社中学出身者で応援団長を務めたのは昌のみであったと言われている。当時の高商は、全国の猛者を集め銃剣道に野球、相撲と高専大会で全て優勝した時である。当時の写真は、どう見ても奇麗とは言えない姿で、時に羽織袴で寺町などを闊歩するバシカラな学生だったようだ。

学生時代の同級生で電波新聞社元会長だった平山秀雄氏が、片桐昌の追憶集に学生時代の思い出を寄稿して頂いているので紹介したい。

彼は学生時代よりスポーツマンとして、スポーツと言えばなんでも来いの明朗闊達な人であった。最後は「テニス」で大往生をとげたと聞いて、類稀なる幸せな人生を送り大往生を遂げたと言われるのではないかと思う。彼は周囲の人に対して常に温かい心で接していた。特に金を持つたり、物を持つたり

している時の彼は底抜けに善人で、周囲の人に対して最高にふるまったものである。

高商の二年生の暑中休暇に東京に遊びに来いとのお招きをうけた彼の兄さんの世田谷区下北沢の下宿にこもりこんで、彼とともに楽しい休暇を過ごしたことは、一生忘れられない楽しい思い出である。

機会があれば中国の江西省の戦跡を彼と共に訪ねたいと思っていたがそれも夢と化した。

私は生前彼は洗礼を受けたクリスチャンと思っていたが、臨終になって洗礼を受けたと聞いて、いかにも彼らしくあの世へ行く前に飛んで行って洗礼を受けたのだなあと感じ入っている。今頃はあの世で楽しそうに丁々発止と「テニス」をやっていることでしょう。――



高商時代、羽織袴の昌

昭和13年高商を卒業後陸軍に入隊、18年中尉で退役。その後東亜海運株式会社に入社し、中国江西省九江に赴任。翌年竹田美智と結婚し、20年4月同地で長男陽(私です)を授かる。

終戦後の昭和21年、九江より京都に引き揚げたが、兄弟姉妹もいたことから京都の株式会社大同洋紙店に入社する。

23年には二男隆(弟です)が、相国寺門前で借りていた平安教会山口牧師館で生まれる。

昭和25年、私は歩いて数分の同志社幼稚園に入園し、ここに同志社四代目が誕生する。

さて父親としての昌は、体育会系のスポーツマンであり、兄弟二人はスパルタ教育そのもので育てられた記憶しかないが、反面子煩悩でもあり、休日となるとテニス、夏は水泳、冬はスキーと子供の頃からスポーツの環境を与えてくれた人であった。それと、母親も同志社女子大卒の同志社ファミリーだったことから、同志社関連の行事には私達を引き連れ必ず参加していた。その折、私に何時も「お前は同志社四代目だから」の言葉だったが、当時は四代目が何かなんて全く分かっていなかった。

連載
コラム

今出川四季



(株)テクノスジャパン
代表取締役会長
奥出 聡(77年・工)

私が入学した1973年はまだ学生紛争が残っており、3度のレポート試験を経験した。その年はオイルショックの物価急上昇時期でスーパーにトイレレットペーパーが無くなった年だ。

高校まで運動部に所属していたので、何クラブに入るか物色していたが、工学部という事もあり、厳しい体育会系は留年覚悟とも言われた。

結局、1年生の秋にゴルフ同好会に入部した。このゴルフ同好会での経験、技術はその後の会社生活、人的交流等に非常にプラスになった。平日は川端通りの打ち放し練習場、土曜日は名神山科ゴルフ練習場をよく利用しランニングと球打ちをした。毎月月例会があり、好成績だとクラブ内ハンディが上がる。

春合宿、夏合宿、男子だけは夏休みに強化合宿、イブ祭の時に秋合宿があり、砂袋を手を持ち、キャディバッグを担いで一週間走ってラウンドする。一日15〜2ラウンド。真夏の合宿は結構きつい。福井県の芦原カントリーでの合宿が最も多く、今でも久々にラウンドすると気持ちが高揚して涙が出そうになる。



ゴルフ同好会の仲間と(左から2人目が筆者)

就職活動はオイルショックの直後であり、最悪の就職難。学内推薦をもらって日立製作所に入社が決まり、システムエンジニアとして大阪に配属される。2002年から東京勤務となり、COOとして産業、流通、公共のお客様並びに中国、韓国、東南アジアも管掌させてもらった。色んな局面で学生時代からやってきたゴルフが役立つ。上手下手は関係なく、一日中一緒にプレイし、色んな会話がで

きる。現在はテクノスジャパンに勤務しているが、退任後もゴルフだけは続けたいし、そのために身体を維持していきたい。また、縁あって昨年10月に設立された理工会東京支部の支部長を拝命したので、支部の発展、同志社のために邁進していきたいと思っている。



心物両面で豊かに「人間成長」を

校友 訪問

エン・ジャパン株式会社 代表取締役社長
鈴木孝二さん 1995年(平成7年) 商学部卒業



「入社後活躍研究所もあります(笑)」と鈴木社長

「人」、そして「企業」の縁を考える。
人材採用・入社後活躍のエン・ジャパン——こうしたキャッチフレーズで注目を集めるエン・ジャパンの若き社長は、瀬戸内海の陽光にも似た明るいキャラクターで世の中のすべての「縁」を繋いでくれます。

1971年生まれ 愛媛県出身。1995年に同志社大学商学部卒業後、エン・ジャパンの前身である株式会社日本ブレンセンターに入社。2000年1月、エン・ジャパン株式会社を設立、同時に取締役。2001年6月、ナスダックにて株式公開。2008年6月に代表取締役社長。2017年3月よりエンワールド・ジャパン代表取締役会長職を兼任。

島の子の「縁」を繋いで

本州と四国を結ぶ、いわゆる「しまなみ海道」は、広島県尾道市と愛媛県今治市の間の瀬戸内海の島々を橋で繋いだ「海道」で、あの村上水軍や越智水軍が活躍した地域。その中の弓削島が私の故郷です。現在、「エン・ジャパン」は新宿アイランドタワーに入っていますが、島IIアイランドつながりの不思議な符合(笑)、これも一つの「縁」かもしれません。

ん。エンは面白い。

そして、私の島が愛媛県の越智郡で、現在の会長が越智通勝。この「越智」つながりの「縁」が私の人生を変えることになったのですが、その話は後ほどに。

高校は下宿して今治西校に。そして、同志社の商学部に入社。西田ゼミで「管理会計」を学びました。これ、今考えると、もったいなく勉強しておけばなあ、と思います。

下宿は、田辺と今出川両にらみで、伏見に。振り返れば、アルバイトに精を出した四年間でしたね。働くことが好きだったんでしょう。例えばビアホール。

お客さんのジョッキの八分目ほどがなくなつたときに「もう一杯、いかが?」と声がける。このタイミングの一言で売り上げが伸びる。声をかけてもかけなくても、私の時給には関係ないけれど、私は、声をかけようと思いついた。売り上げが上がるほうが面白いじゃないですか(笑)。この感覚は今も変わりません。

入社後活躍へのこだわり

卒業は1995年。バブル崩壊

の後の不景気で、就職氷河期。マスコミ志望でしたが不調の中、一枚の求人葉書に目が止まりました。「日本ブレンセンター」。リクルートの求人広告代理業を営む大阪にある社員百名余の会社。これがエン・ジャパンの前身です。その会社の社長の名前が越智通勝。私の故郷、越智郡と同じ名前に縁を感じて、彼が呼びかけた「世の中ウオッチングセミナー」というのに出掛けました。「大手だから安心、楽では成長できんぞ」「ぬるま湯につかったら、アカン」とか、本音でバンバン言う。そのカリスマ性に魅了された、というわけです。

当時から求人掲載するだけではなく、入社後の教育・評価制度の構築サポートもしていました。入社後に活躍する人材が定着していくためには、適切な目標設定や期待をかけて、承認・称賛・成長感といった報酬を提供することが重要と一貫して考えていたんです。

2000年に現在のエン・ジャパンになってからは、通り一遍の情報ではなく、その会社の「課題や欠点」も正直かつ詳細に求職

者へ提供する、というスタンスが我が社の強みになりました。求人広告はとかく企業にとって耳障りの良い情報ばかりになりますが、でも、いくら良いことを書き連ねても、入社後にギャップが必ず生じます。本当の情報こそ価値あり。最初はこの方針に求人企業からの賛同を得がたい側面もありましたが、現実をよく理解した方が入社・活躍する様子を見て少しずつ輪が広がっていきました。

「入社後の活躍」「入社後の人生の充実」がひいては企業の発展に繋がる。これが、今もエン・ジャパンの基本方針です。中で、1100名超の企業となつた今、カリスマ性に導かれた会社から総合力を発揮する会社にするのが私の役目だと考えています。

人間成長。これが我が社の基本理念であり、私の座右の銘でもあります。人間的成長、ではありません。働く場を通して、精神面も報酬面も成長する。心物両面の、人間そのものの成長を信じて。そういう社会を作っていきたいと思っています。

文責／谷村和典(72年・文)

*

定期戦

同志社スポーツ

のは同志社か、それとも慶應義塾か



慶應義塾大学ラグビー部は1899年の創部で、日本ラグビーのルーツ校と言われています。当時英語の講師を務めていたE・B・クラークがラグビーを伝え、学生たちに教えたと記録されており、慶應日吉グラ



第1回定期戦を戦った選手たち(Dを付けているのが同志社)
1912(明治45)年1月8日 京都・三高グラウンド

からやってきた学生の指導を受け、ラグビー部がスタートしました。同志社が慶應義塾と初めて戦ったのはその翌年、1912年1月8日のことです。雪解けた三高グラウンドで対戦し、3-

ドには「日本ラグビー蹴球発祥記念碑」が立っています。その後、ラグビーは1910年、京都の三高に伝えられました。下鴨神社の糺の森にあった馬場で練習が行われていたらしく、それを記念する「第一蹴の地」という石碑が建立されています。その翌年、1911年の秋に、三高からの熱心な誘いに応じ、同志社にラグビー部が誕生します。当時、ダートマス大学出身のパーレット教授が紹介したサッカーが学生たちの間で関心呼び、校内でボールが蹴られていたとのこと。そういう学生たちが中心になり、三高や慶應義塾

田にラグビー部ができたのは1918年ですが、中心となったのは旧制の同志社中学や慶應普通部から早稲田大学に進学した方々です。初代の主将である井上

24で敗れています。この試合、慶應義塾が先制しますが、同志社ラグビー100年史によると、「我健児奮起大に勉む時に大脇(選手)球を抱へて走す、其の様飛鳥の如く慶軍の後衛(フルバック)支へんとすれど及ばず遂に敵陣(ゴール)に突入して得点(トライ)、三点を得て回復はなれり」と同点に追い付いたトライを晴れやかに伝えています。※()内は筆者注



第11回定期戦は0-0の引き分け
1923(大正12)年1月8日 慶応三田・綱町グラウンド

成意は同志社中学の出身、共に創部に向け奔走した岩崎象雄は慶應普通部の出身です。話を定期戦に戻しましょう。その後も同志社は慶應義塾と対戦しますが、一日の長のある慶應義塾になかなか勝てません。定期戦も第19回目を迎えた1933年1月8日、南甲子園運動場に慶應義塾を迎えた同志社は6-0のスコアでやっとな慶應義塾を降して初勝利を挙げ、



大学選手権決勝で対戦、同志社が勝利しV3達成
1985(昭和60)年1月6日 国立競技場

日本最古の大学ラグビー 第100回を制する

1912年(明治45年)に始まった同志社と慶應義塾のラグビー定期戦が第100回を迎え、5月4日秩父宮で激突します。

対戦成績を1勝15敗3分けとします。初勝利に歓喜する同志社ファイティーンの様子が目に浮かぶようです。

その後も両校は定期戦を重ね、また、時には大学選手権で対戦し、東西を代表する伝統校の意地とプライドを賭けて戦ってきました。数々の名勝負が残されましたが、中でも1985年度の大学選手権決勝は同志社の三連覇が懸かった試合であり、終了間際には慶應義塾の逆転勝利に結び付くはずの「幻のトライ」が生まれたことから、その後30年以上経った今も話題になる試合です。

この年の慶應義塾は市瀬、松永ら高校ジャパンの名選手を擁し、伝統の猛練習を経て早稲田、明治にも打ち勝ち、大学日本一を奪取すべく決勝まで進出した強いチーム、しかし、対する同志社も平尾、大八木、東田など大学ラグビーを代表する選手がずらりと揃う学生最強チームでした。大歓声の

中、ゲームが始まります。開始早々、平尾が巧みなナステップでディフェンスをすり抜け先制のトライ。その直後にも同志社は2つ目のトライを取り、前半10分で10-0とします。これは同志社の快勝かと喜びますが、その後、慶應義塾はスクラムで同志社を圧倒、追加点を許さず、2PGを上げて10-6とし、次第に同志社は防戦一方となっていくます。そして終了間際の38分、慶應義塾は左オーブンに展開し、⑩-⑫-⑮とつないで村井がボール下にトライ、間違いなくゴールも成功する場所だったので10-12で逆転負けかと思った瞬間、レフェリーがスローフォワードを告げる笛。同志社はぎりぎりのところで決勝戦を制し、三連覇を達成することができたのです。

今だから話せますが、慶應義塾の強い圧力を受けて敵陣に入れなかった同志社は悩み、平尾と土田は「慶應が一つトライを取ってくれたら、我々はキックオフで慶應陣内に入れる。そういう選択もあるかな」という会話までしたそうです。正に歴史に残る名勝負だったと思います。

その慶應義塾との定期戦が今年第100回を迎えます。今年日本最古の定期戦となつていますが、今回は5月4日(みどりの日)に秩父宮ラグビー場でキックオフ。第100回を記念して小学生同士の対戦、先程お話しした「幻のトライ」の決着を付けるべく当時のメンバーが戦う「レジェンドマッチ」、最近までトップリーグで活躍した若手OBによる対戦、そして大学生同士の対戦など、さまざまなゲームを企画しています。

これまでの対戦成績は同志社40勝、慶應義塾55勝、引き分けが4つ、記念すべき第100回を勝利で飾りたいのは両チームともに同じでしょう。慶應義塾にとっては戦い慣れた秩父宮ラグビー場ですが、一方の同志社にとっては11年ぶりの大学選手権準決勝進出で1月に戦ったばかりのグラウンドです。

両チームともプライドと意地を前面に出して激しいゲームを繰り広げることでしょう。応援合戦で負けたとあつては選手たちに顔向けできません。皆さまの力強い応援を心よりお願い申し上げます。

文責/出石賢司(78年・経)

IC・電子部品の調達から技術まで一括サポート致します!

明光電子一社で全ての部品がそろい、技術サポート、製造、検査までのプロセスを「早く」「広く」「深く」をキーワードに実践できる、電子の統合サービスが明光電子の強みです。

- 早いレスポンス — 「情報」と「モノ」を素早く正確に提供
- 広いネットワーク — 業界に広く通じているから何でも揃う
- 深いサポート — 確かな信頼があるからこそできる協働体制



明光電子 株式会社

神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-9 新横浜ICビル
FAX: 045-471-2377
E-mail: info@meicodenshi.com

☎ 045-471-2223

明光電子 | 検索

代表取締役 十川 正明
(昭和48年 機械工学科卒業 合気道部)

「洛紫会」講演会

元株式会社よしもとクリエイティブ・
エージェンシー 専務取締役

竹中功さん

笑うコミュニケーションのススメ

2016年最後の「洛紫会」は、11月28日(月)に、同志社大学東京サテライト・キャンパスで開催。講演のタイトルは、「笑うコミュニケーションのススメ」でした。

竹中功さんは、法学部法律学科を1981年に卒業。吉本興業株式会社に入社後、わずか3カ月での広報室の立ち上げを皮切りに、「よしもとNSC」の開校、「心斎橋筋2丁目劇場」や「なんばグランド花月」の開場等、数々の実績を積み上げられ、(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシー専務取締役等を歴任されました。

講演会では、コミュニケーションの真髓を、余す事なく語っていただきました。笑いのど真ん中を主戦場とし、時には重大な謝罪会見を乗り越えられてきた竹中さんが語るコミュニケーションのお話は、大

変説得力がありました。竹中さんが語っておられた「心や気持ちの通い合い」、「感じる力の重要性」等については、各聴講生が、一人ひとり真剣に考えさせられる機会を得られたのではないのでしょうか。

当日は、50名以上が参加。途中で、柔らかな頭や発想があるかどうかを確かめるべく、いくつかのクイズが出題され、全員が苦勞(?)しながらも大変楽しんで取り組んでいました。

講演の内容は盛り沢山で、所定の時間をオーバーする中、質疑応答のやりとりも止まることを知らず、活気に満ち溢れた状況の中で講演は終了しました。講演終了後も、竹中さんの著書「よい謝罪」を求める参加者が引きも切りませんでした。予定より遅れて始まった懇親会も殆どの方が参



竹中功さん講演会「笑うコミュニケーションのススメ」

加され、竹中さんや校友との交流を深めていました。竹中さんも、参加者一人一人と密に語り、終了後は、なかなか同窓の会合には出席できないものの、久々に大変楽しかったと語っておられました。

竹中さん、開催の実現と運営にご尽力下さった皆様、心から御礼申し上げます。

文責/吉田太郎(01年・法)

●次回「洛紫会」のお知らせ

2017年5月26日(金)の19時から、同志社大学東京サテライト・キャンパスにおいて、株式会社ガイアックス代表執行役社長上田祐司さん(97年・経)をお招きし、「シェアリングエコノミーの現在と未来(仮)」について講演頂く予定です。

上田さんは、24歳で同社(当時は有会社社)を起業し、2005年に僅か30歳の若さで上場させました。同社は、人と人をつなげることをミッションとし、近年はシェアリングエコノミーに注力しています。シェアリングエコノミーは、モノを所有するのではなく、モノやサービスを互いに提供しあうビジネスの形態で、カーシェアを例に出すまでもなく、近時は成長が著しい分野です。上田さんは、一般社団法人シェアリングエコノミー協会の代表理事も務めており、間違いなくシェアリングエコノミーの第一人者です。ぜひ、次回の「洛紫会」では、上田さんの起業精神や最先端のビジネスの中核に触れて頂きたいと思えます。

文責/吉田太郎(01年・法)

通販化粧品・健康食品
18年連続売上
No.1
2000年1月1日～2017年1月1日
日本流通産業新聞 通販・通教・EC売上高ランキング
DHC
http://www.dhc.co.jp CR17-04(HK)

史上初! 独自研究開発成分
DHC スーパーコラーゲン
化粧品の可能性をつぎつぎと切り拓くDHCは、このたび史上初^{※1}の「DHCスーパーコラーゲン^{※2}」を発明いたしました。この新成分は、従来のコラーゲン^{※3}より約1/2～1/10も分子が小さく^{※4}、史上最高^{※1}の浸透力を示す新世代コラーゲン^{※2}です。そして、この画期的な成分を配合した美容液も誕生させました。これからも、日本最大級の通販化粧品・健康食品企業として、お客様が美しく輝く毎日を応援いたします。
※1 DHC史上 ※2 ジペプチド-8(コラーゲンペプチド) ※3 加水分解コラーゲン(コラーゲンペプチド) ※4 DHC調べ
株式会社DHC
〒106-8571 東京都港区南麻布2-7-1 代表取締役会長兼CEO 吉田嘉明(昭和40年 文芸部英文科卒)

同志社東京校友会 2017 同志社東京・春の集い

1897年（明治30年）に東京支部が発足して、今年で120周年を迎えます。
その長きに亘って、この会の発展に寄与された方々に、感謝すると共に、
これから新たに参加される皆様を歓迎する意味を込めて、テーマは、
「みんなにありがとう 未来 一歩前へ」といたします。

講演会：私の同志社と未来 佐藤 優氏
同志社大学在学中での思い出や、その後外交官としてご経験された幅広い知見を通して、同志社と未来を語っていただきます。

プロフィール
佐藤 優氏（同志社大学神学部教員、作家、元外務省主任分析官）
1966年東京都生まれ。1985年同志社大学文学部国際文化学系卒業。外務省に入省。外務省の主任分析官として対外外交の最前線で活躍。2009年外務省を退職。2005年『国家の魂 外務省のメカニクスと神話』で第9回読者選定文芸大賞特別賞を受賞。2006年『自衛隊の神話』で第5回読者選定文芸大賞を受賞。著書『国家の魂』『国家の神話』『同志社大学神学』、『外務省の神話』、『自衛隊の神話』、『国家の魂』『歴史×地理』で解説しています。1994年出版『2016 いっしょに学ぶ』に著者として「中央・近世 教員編」(東京経済新聞社/2016)

120周年記念行事として、「有志コンサート」、「募金パサール」、「パネル展示」を実施します。
全員集合イベントでは、昨年好評でした「メサイア演奏」を行います。松岡学長には「同志社大学ビジョン2025」を語っていただきます。

【日時】 2017年5月14日（日） 受付開始11:00～（3階）
11:30 大名刺交換会（3階 ロイヤルホール ホワイエ）
12:00 有志コンサート第一部 募金パサール、パネル展示
13:00 メサイア演奏・式典（3階 ロイヤルホール）
14:20 講演会 作家 佐藤 優氏（3階 ロイヤルホール）
15:40 懇親会・饗宴
17:40 閉会
18:00 有志コンサート第二部 50年会バンド（2階 有明）

【場所】 ロイヤルパークホテル 3階ロイヤルホール
東京メトロ半蔵門線 永田町駅 4番出口徒歩

2017 同志社東京・春の集い実行委員会

来る5月14日（日）に「2017 同志社東京・春の集い」を開催します！ もつすぐです！

「申し込み」はお済みですか？
本誌前号での「告知」、郵送しました「案内状・チラシ」、あるいは東京校友会のホームページやフェイスブックなどで情報を発信していますので、ご存知の方が多いと思います。そして、もうすでに参加申し込みを済ませた方も多いと思います。ありがとうございます。
まだの方、まだ間に合います。

急ぎ、ホームページからお申し込みください。ご参加をお待ちいたしております。
今年は「120周年記念祭！ テーマ別イベント」を企画
今年の「春の集い」は、東京校友会発足120周年記念祭として開催いたします。テーマは「みんなにありがとう 未来一歩前へ」です。そして三つのテーマ別イベントを行います。受付は11時からです。
①「有志コンサート」
同志社卒業生によるコンサートです。第一部は12時から伊藤

「お知らせ！」120周年記念祭「2017同志社東京・春の集い」

誠さん、第二部は18時から50年会バンドによる特別な音楽会です。会場は2階「有明」ですが、3階で受付を済ませてからご入場下さい。なお、飲食禁止です。

②「パネル展示」
東京校友会の過去・現在・未来、また関東甲信ブロック各支部の紹介を展示パネルにします。ぜひ、立ち寄ってご覧ください。

③「募金パサール」
「東京校友会奨学金」と「熊本地震同志社ゆかりの地基金」のための募金を行います。募金箱も用意いたしますので、皆様の暖かいご協力をお願いします。また、恒例になりました「大名刺交換会」は11時30分から行います。ビジネスパーソンの皆様は名刺を多く持参され、いい出会いの機会としてください。

全員集合イベント「メサイア演奏」佐藤優氏特別講演会など、お楽しみ満載
全員集合イベントは13時から3階ロイヤルホールで開始です。
①「メサイア合唱・合奏」
合唱団や個人参加の方々がオーケストラの伴奏で、有名な「ハレルヤとアーメンコーラス」を歌います。今から楽しみみです。東京クローバークラブによる

「College Song」と「同志社大 学歌」も楽しみみです。
②「同志社大学ビジョン2025」
松岡学長にそのお考えや思いを語っていただきます。
③「特別講演会」
元外交官で作家の佐藤優氏に「私の同志社と未来」と題して、ご本人の大学で得たものと、その後の人生で得たもの、深い知見からみえる世界のこともお聴かせいただけるものと考えており、大いに楽しみみです。
④「大懇親会」
卒業年次毎のテーブルをご用意します。旧交を温め、また新しい出会いを楽しみましょう。同志社東京アンサンブルの演奏

も楽しみみです。
「応援団による演舞」は現役の応援団とチアリーダー部の皆様にご登壇をお願いしています。なお、前日13日に京都で開催の硬式野球部同立戦前夜祭の天候次第では、応援団OBによる演舞となります。最後は全員で肩を組んでの「College Song」斉唱で締め括ります。
「春の集い」は東京校友会最大の行事です。1973（S48）年卒を中心とした実行委員会は120周年記念祭の当番年次に当たった幸運と責任感を感じて準備を進めています。実行委員一同、校友の皆様のご参加を心よりお待ちしております。
文責／阪口章夫（73年・商）

東京校友会 120周年記念祭 2017 同志社東京・春の集い

有志コンサート 第一部 12:00-12:40 有明(2階)

伊藤 誠「いのちを歌う」
Photo: 伊藤 誠 (著作・作曲・歌)
島根県松江出身。同志社大学文学部、サーカス・パフォーミング・アート学部音楽科にて優秀賞を受賞。『いのちを歌う』でメジャーデビュー。2004年2月のNHKラジオで『五月の雨』でグランプリを受賞し、日本作曲家協会賞。2011年6月にはポッドキャスト『五月の雨』で日本大賞賞チャリティーコンサートを開催。長年多岐な銀行（第一勧業・福みずほ）に身を置いていたが2012年4月に独立し、音楽活動に専念することを決意。
2014年7月、初めて実現したたのびのびな「日本と心交流 400周年記念イベント」に招聘され、日本大賞賞チャリティーコンサートを行い、大成功を収める。2014年12月 BS-TBSにてドキュメンタリー番組「アーティスト伊藤誠の音楽と人生」が放映。更に2015年10月 NHK 国際放送にて「Songs of Life - Singer Songwriter Makoto Ito」として特集され、全国に向けて発信された。
島根県よりふるさと大使「島根大使、松江よりふるさと大使」に就任。現在、TV番組「賢者の選択」のテーマ曲を作曲・作曲・歌中。またTBS番組にて「伊藤誠の「いのちを歌う」」を毎週放送中。

有志コンサート 第二部 18:00-18:40 有明(2階)

同志社 50年会バンド
同志社OB&OGは、音楽の世界で活躍して活躍している方々も多数。今回はその中でもとりわけのびのびと活躍中のOB&OGによるスタンダード演奏を行います。

岸本 一雄
（1947年10月生まれ）
島根県松江市出身。同志社大学文学部音楽科卒業。卒業後、音楽活動に専念。作曲・演奏・指揮・教育など幅広く活躍。同志社大学音楽科で教鞭を執る。現在、同志社大学音楽科で教鞭を執る。

水谷 啓二
（1947年10月生まれ）
島根県松江市出身。同志社大学文学部音楽科卒業。卒業後、音楽活動に専念。作曲・演奏・指揮・教育など幅広く活躍。同志社大学音楽科で教鞭を執る。現在、同志社大学音楽科で教鞭を執る。

根本 任弘
（1947年10月生まれ）
島根県松江市出身。同志社大学文学部音楽科卒業。卒業後、音楽活動に専念。作曲・演奏・指揮・教育など幅広く活躍。同志社大学音楽科で教鞭を執る。現在、同志社大学音楽科で教鞭を執る。

佐藤 寛
（1947年10月生まれ）
島根県松江市出身。同志社大学文学部音楽科卒業。卒業後、音楽活動に専念。作曲・演奏・指揮・教育など幅広く活躍。同志社大学音楽科で教鞭を執る。現在、同志社大学音楽科で教鞭を執る。

有志コンサートは入場無料で先着150名まで

120周年記念事業
東京校友会奨学金募金

2月27日、評議員会・総会で「東京校友会奨学金規程」が承認されました。

その抜粋をお知らせします。

(目的)

第1条 同志社東京校友会奨学金は、関東・甲信圏出身の同志社大学生で、学業優秀でありながら経済的理由により就学支援を必要とする者に対して奨学金援助を行うことを目的とする。

(奨学生の応募資格)

第2条 関東・甲信圏から同志社大学へ進学した大学生であつて、次の各号のすべてに該当する者とする。

(1) 学力家計基準を満たす者
(奨学金の額)

第3条 奨学金の給付額は、年額300,000円とする。

2、奨学金の返還は要さないものとする。

(奨学金の給付期間)

第4条 奨学金の給付する期間は、原則として1年とする。

(応募方法)

第5条 奨学金の給付を志望する者は、次の各号に掲げる書類について、同志社大学生生活課を経て、同志社東京校友会に提出するものとする。

(奨学生の採用)

第6条 奨学生の採用は同志社東京校友会の奨学生選考委員会
の選考を経て会長が決定し、結果については同志社大学生生活課を通じて、本人に通知する。

◎募金のお願ひ

目標額年間120万円(年額30万円を学生4名に)です。校
友皆様方のご理解とご協力をよろしく願ひいたします。

文責/早田重彦(66年・経)

すみれ亭 昭和38年会俳句会

冷えひえの玻璃わんがすきおとし鱧

平野 豊嗣

ちんちんに冷えた切子の器が汗をかいている。そこへ鱧の切り身を落として一杯頂くとするか? さすが関西出身の作者、ええねえお天とさまはまだまだ高いし。

(選評・あかぎ倦鳥)

計報
小出力三郎名誉顧問ご逝去

東京校友会名誉顧問で元応援団長の小出力三郎さんが、3月21日、98歳で永眠されました。小出さんは、1942年(昭和17年)法学部経済学科卒業。東映フライヤーズ球団を定年退職後、1975年(昭和50年)からは学校法人同志社東京分室室長となり、校友会東京支部の専務理事や副支部長などを歴任されて、東京支部の礎を築かれました。新島襄終焉の地碑前祭、シティホテルでの懇親会、企業内同志社会、年次会、国立競技場でのラグビー部応援などを始められ

編集後記

役員のご改選による世代交代で、東京ジャーナル編集委員会では、新しい発想力と行動力を持つ若い世代の戦力増強が急務となっております。即戦力となる編集委員(記者・カメラマンなど)を募集しています。

本誌の企画・取材・編集・校正などに興味がある方は、ぜひ、東京校友会事務局にご連絡ください。



ラグビー部大学選手権3連覇の時が一番楽しかったと語る小出さん(東京ジャーナル101号より)

たり、活発化されたりしたのも小出さんです。長い間、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします

文責/新田博伸(77年・法)

さい。お待ちしております。

文責/新田博伸(77年・法)

DOSHISHA TOKYO JOURNAL

2017.April. NO.107 同志社東京校友会
〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-22-7 大平ビル6階
電話: 03-5579-9728
FAX: 03-5579-9729
発行人/児玉正之
編集人/新田博伸
印刷/株式会社スバルグラフィック
<http://www.doshisha-tokyo-alumni.jp>
mail:office@doshisha-tokyo-alumni.jp

HP会員ページ
ログイン情報

ID=doshisha
PASS=1875

家族葬から社葬・お別れの会まで、

信頼の葬祭ブランド「公益社」におまかせください。



KOEKISHA

株式会社公益社 ネットワーク 東京・横浜・大阪・兵庫・奈良
東証一部上場 燦ホールディングスグループ
東京・神奈川に10会館 大阪・兵庫・奈良に29会館

まずはお電話を。公益社 ご葬儀相談センター(24時間・365日受付)

さよならのこころ

☎0120-347-556

☞ <https://www.koekisha.co.jp> ☞ 通話料無料・携帯電話可

首都圏ネットワーク(自社会館・営業所)

◆ 東京本社 (港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 14F)

- 公益社 用賀会館 ● 公益社 田園調布会館
- 公益社 高円寺会館 ● 公益社 雪谷会館
- 公益社 明大前会館 ● 公益社 高輪会館
- 公益社 仙川会館 ● 公益社会館 たまプラーザ
- 公益社 喜多見会館 ● 公益社 日吉会館
- (2016年9月オープン)

■ 青山ご葬儀相談室 ■ 鶴見営業所

※上記を中心に300ヶ所以上の葬儀場がご利用になれます。

対応地域 首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)
近畿圏(大阪・兵庫・奈良)

燦ホールディングス(株)
株公益社

相談役

はりしまさのぶ
播島 幹長 (昭和33年 経済学部卒業)

燦ホールディングス(株)
株公益社

顧問
おかわよしひで
小川 佳秀 (昭和50年 経済学部卒業)